

【全訳】

ケンジ、サツキ、リクは高校生です。彼らは授業で、グループになって自分たちの発表について話しています。彼らの先生のグリーン先生が彼らのところにやって来ます。

グリーン先生：あなたたちの発表のための作業はどうかしら？
ケンジ：うーん…。よかったり悪かったりです。ほくたちは環境問題について話をするをすでに決めました。

グリーン先生：ああ、それは重要なテーマね。

サツキ：はい、私たちはみなそう思っています。でも、いくつかの点で私たちは意見が合わないんです。たとえば、ペットボトルは環境に悪いので、私は、ペットボトルに入った飲み物を買うべきではないと思っています。でも、リクは私に賛成ではありません。

リク：いえ、違ふんです。もちろんほくも、ペットボトルは環境に悪いことを知っています。その点では、サツキと同じ意見です。でも、ペットボトルはとても便利です。それは丈夫で軽いです。外出中にほくたちはそれらに入った飲み物を簡単に買うことができ、使ったあとはそのボトルを捨てることができます。もし正しいやり方でそれらを捨てれば、それらはリサイクルされて、環境に害を与えません。

サツキ：私は、私たちがしばしば悪いやり方でそれを捨てるのが心配なんです。プラスチックごみは世界中でとても大きな問題です。

グリーン先生：そうね。私はあなたたちの考え方を両方とも理解できるわ。それらを整理しましょう。すべてのことにはいくつかの異なった側面があるの。環境問題の場合には、環境へのやさしさが最も重要だと考える人が多いけど、便利さもちょうどそれと同じくらい重要だと考える人もいるわ。

リク：ええ、ほくもそう思います。

グリーン先生：それでは、このような図を作ってはどうかしら？

グリーン先生は紙に何かを描き、それを生徒たちに見せます。

グリーン先生：あなたたちはこの図に4つの部分が見えるわね。環境へのやさしさと便利さにしたがって、あなたたちはあるものをその1つの部分に置くことができるの。たとえば、もし何かが環境によくて便利だと思ったら、右上の部分にそれを置くべきよ。もし何かが環境に悪くて便利ではないと思ったら、左下の部分にそれを置くべきなの。

リク：おもしろそうです。ほくはペットボトルは環境に悪いけど便利だと思っているので、ほくたちはそれを右下の部分に置くべきです。サツキ、きみはそれについてどう思う？

サツキ：私は、ペットボトルがそんなに便利だとは確信できないわ。私は左側と右側の間の境界線上にそれを置きたいのだけど。グリーン先生、そうすることはできますか。

グリーン先生：ええ、できるわよ。

リク：了解。サツキの考えを採用しよう。

ケンジ：ところで、サツキ、きみは外出していて何か飲みたくなったかどうか？

サツキ：私は外出するとき、ふつう自分のボトルを持っていくから、それで飲むのよ。もし持っていなかったり、違ったもの

のが飲みたかったりしたら、コーヒーショップか何かに入るわ。

ケンジ：コーヒーショップの外に飲み物を持っていく場合はどうするの？

サツキ：お店がくれる紙コップを使うわ。

リク：待って。紙コップを作るためには木を切り倒さなければならぬから、紙コップも環境によいとは思わないな。

サツキ：本当？ それについて考えたことがなかったわ。

ケンジ：「自分のボトル」と「紙コップ」をこの図に入れようよ。

紙コップは本当に便利だけど、環境にはそれほどよくない。

サツキ：それほどよくはないけど、ペットボトルよりはよいわよね？

リク：うーん、そのとおりかもしれない。「よい」と「悪い」の間の境界線上にそれを置くことにしよう。

サツキ：了解。自分のボトルは便利で、環境によいわ。

リク：違ふよ。環境にはよいわけけれど、ほくはそれを持てない。全然便利じゃないよ。

サツキ：わかったわ。今回はあなたの考えを採用するわ。さあ、私たちは図に3つのものを入れたわ。グリーン先生、これはどうですか。

グリーン先生：よいわね。それでは交通機関のような別の例について考えることもできるわよ。

ケンジ：なるほど。自動車は悪い気体を排出するから、環境には最悪だと思うよ。バスと電車は自動車よりよいわね。

リク：ほくも同じ意見だよ。バスも悪いガスを排出するけど、多くの人を運ぶことができる。だから、もしより多くの人が自分の自動車を使うのをやめて、バスに乗るようになったら、そのほうが環境によいね。ほくは「バス」を境界線上に、「電車」を上側の部分に置きたいな。

サツキ：環境へのやさしさについては、あなたの言うとおりね、リク。便利さについては、バスはよく遅れるから、私はあまり便利だとは思わないわ。それに、私たちは電車を降りて離れた目的地に歩いていかなければならないことがときどきあるから、電車は自動車ほど便利ではないわ。

ケンジ：なるほど。それでは両方とも境界線上に置こう。自転車はどうかな？ ほくはそれが環境に最もよいと思うよ。

リク：きみの言うとおりだ。それは悪いガスを排出しないし、自転車に乗るのは健康によいね。だからほくはふだん自転車で学校に通っているよ。でも雨の日や風の強い日は、それはあまり楽しくない。便利とは言えないな。

サツキ：自転車に乗っているとたくさんのおもしろいものが見えるから、私は自転車に乗るのが好き。でも便利さについては、自動車が 많이 通りを自転車で行くのは危険なことがあるから、リクに賛成よ。そして交通機関についての図が完成ね。

グリーン先生：よくやったわ。このようにして、あなたたちはいくつかの図を作ることができるのよ。それらは、あなたたちに発表のための役に立つヒントをいくつか与えてくれるでしょう。やってみて。